



外国人とともに生きる大田・市民ネットワーク 会報

つうしん
通信

No.129
2024-1.1

NEWSLETTER

日本語でプレゼンテーション “日本にきて、がんばってきたこと”

優秀賞 真壁茉優（女塚小学校5年）



私は、女塚小学校5年の真壁茉優です。小学校1年の時に日本にきました。日本に来た時、最初に思ったことが3つありました。1つは、日本人みたいにうまく話すようになれるかどうかという心配でした。

2つ目は、家がとても広いと思いました。なぜかという中国で住んでいた家は、マンションだったので、わたしが住み始めた日本の家は一軒家でとても広いと思いました

そして3つ目は、1年生の入学式のことです。わたしは、学校の先生は、とてもこわいと思っていました。なぜなら、中国の幼稚園の先生は、いつも怒ってばかりいたからです。日本の小学校の先生は、とても優しくかったです。わたしは、日本語を読めず、授業に参加しても全くわかりませんでした。だから、わたしは、一生懸命、日本語の勉強を放課後、日本語教室で学びました。

今から、日本に来てから5年生までのわたしの本当に、頑張ったことを話したいと思います

わたしが、1年生のときに頑張ったことは、スイミングです。

中国では、プールでおぼれたこわい経験がありました。日本の学校でもスイミングのじゅぎょうがありました。お母さんにスイミングをやるように言われ、スイミングスクールにかようようになりました。スイミングでは、いきつぎをリズムよくやらなければなりません。たとえば、「1. 2. 3呼吸」と・・・スイミングスクールで、友達も



できて、友達とは、「次は、2級だね」と話しながら一緒に上のクラスをめざしてがんばるようになりました。

お母さんにやりなさいと言われ、泳げるようになりました。「お母さん、苦しくてもやめなくてよかった」と思いました。



2年生になりました。暗算を早く正確になるように、そろばん教室にかようようになりました。そろばんは、楽しかったけど、むずかしいこともありました。文章問題は、にがてですが、計算は、とても早くなり、うれしかったです。学校の先生からも「計算は、早いね」と言われました。

3年生では、日本語もわかるようになってきて、国語もがんばりました。本を読むのは大好きです。

学校の図書室にある“ルルとララ”のシリーズは、全部読みました。しかし、漢字がとてもむずかしいです。日本の漢字は、中国の漢字とちがいます。だから、日本語教室や小学校の先生に教えてもらい、家でもがんばりました。わたしの漢字練習をしたノートが出てきたので、みなさん、見てください。

よく見る漢字は、すべておぼえるようにしました。書いて、書いて、書いて、書いて、覚えられるまで書くほうほうです。毎日5分から10分つづけました

皆さん、日本の漢字は、とても難しいですよ。しかし、何度も何度も書いて練習すると覚えることができるので、楽しくなります。

今は、漢字をきれいに書くように、どりよくしています。

そして、4年生になり、いところが、ピアノで“子犬のワルツ”をひいていたのを聞いて、わたしもピアノを習いたくなり、始めました。音符をなるべく早く読めるようにがんばりました。コロナのときは、日本語の勉強がリモートになったので、わたしのばんそうで、日本語の先生に“てんくうの空うピユタ”の曲を歌ってもらいました。なつかしいです

5年生になった今は、バレーボールを頑張っています。水泳は、完璧に泳げるようになったので、他のスポーツにも挑戦してみたいと思いました。“ハイキュー”というアニメを見て、バレーボールにも挑戦したいと思いました。みなさん、ハイキューは、見たことありますか。

フローターサーブができるようになりたかったのです。今は、もうできるようになりました。

最初の1か月2ヶ月は、ボールが飛んできて失敗するのがこわかったけれど、がんばってサーブも入るようになりました。

だんだんじょうずになって、みんなにもみてもらいたいと思うようになり、どんどん楽しくなってきました。

今もクラブチームで続けています。もうすぐ優しく教えてくれた先輩の6年生がいなくなるのが寂しいです。日本語の先生に、「5年間、つらかったことはないですか？」と聞かれましたが、

本当につらかったことはなく、思いっきり楽しみました。

色々なことに挑戦してきました。これからも続けて挑戦したいと思います。これからは、スイーツづくり、たとえば、いちごショートケーキ、チョコアイス、プリン、クッキー、ティラミスなどにも挑戦してみたいです。中国語も書けるようになりたいと思っている女塚小学校5年生のわたしです。

国際都市おおた協会主催の日本語でスピーチは、OCNet 子供日本語教室から、2018年にバタライ マニシャさんとさくらさん。2019年には、バタライ さくらさん。2022年は、伴野萌さんが参加しました。あこがれの先輩の影響を受け、真壁茉優ちゃんは、「来年は、私が出たい。」と私に伝えてくれました。ところが、今年より“スピーチ”ではなく、“日本語でプレゼンテーション”に変わり、プレゼンテーションができるかどうか不安でした。写真を出すだけの簡単なプレゼンテーションでしたが、小学生らしさも出て、堂々と自分の言葉でプレゼンテーションができました。賞をいただいたときは、とても嬉しそうで、私もほっとしました。子供が楽しく頑張っている姿を見るのが大好きな私は、コロナ渦で対面授業ができない時に、茉優ちゃんのピアノ伴奏で私が歌ったのも、今ではいい思い出になりました。皆さんに聞いてもらえず残念。



今後は、茉優ちゃんのように、楽しく日本語を学ぶ後輩達の成長が楽しみです。

皆様、1月からのプレゼンテーションの展示にぜひ、足を運んでください。

～茉優さんの感想～

1年前にせんぱいが参加したので、わたしも参加したいと思っていたので、参加できてうれしかったです。5年間、色々挑戦して、楽しかったです。スピーチは、審査員の大人の人が出て緊張したけど、先生が、笑顔で応援してくれたのでよかったです。日本語の発音は、自信があります。今度、一緒におしゃべりしませんか？

今度は、お菓子作りに挑戦します。



「大田区中国帰国者センターのつどい」

都野圭子

11月23日、大田区消費者生活センターで毎年恒例の「つどい」が開催されました。中国帰国者、一般参加者、スタッフ合わせて60名近い人が集いました。

まず戦前戦中のニュース映像をまとめたDVDが上映され満蒙開拓の歴史を改めて振り返りました。その後、ゲストの中国帰国者の猿田勝久氏が自らの体験を語りました。

猿田氏は大田区の隣の川崎市出身で、終戦の年の4月に川崎大空襲で焼け出され、やむなく一家で満蒙開拓団に参加しました。

中国東北部で終戦を迎えますがまず父親と祖母を病気で失います。すぐに帰国できなかったため母親は子供たちを連れて中国人と再婚しますが、病に倒れました。

猿田氏は養父に助けられながら生き延び、中国で成長しました。獣医になって家庭も築きましたが、日中国交回復後1985年に妻子を連れて帰国しました。

その後も困難の連続でしたが、たいへんな努力で日本語を身に付け、いくつかの国家資格も取得して子供たちを育てあげました。

猿田氏は苦難の道のりを歩んできましたが、人柄は明るく79歳の今でも講演のために各地に出かけ、自らの体験と平和への強い信念を発信し続けています。

その後は帰国者センターの活動内容が紹介され、帰国者の踊りや楽器演奏も披露されて賑やかに幕を閉じました。

皆さんと平和への思いを共有できた1日でした。

2023年8月～12月のおもな活動

■多言語無料相談会OCNet・レガートおおた主催

8月26日(土) 13時30分～16時30分

会場：おおた国際交流センター (minto おおた) 2階会議室C

相談8件：中国語、タガログ語/英語、ネパール語/英語の通訳を配置。中国語の案件はなかった。

対面とオンラインのハイブリッドで実施。無事に遂行できた。

■こどもクラス遠足

9月16日(日) はまぎん「こども宇宙科学館」

■高校進学ガイダンス 品川会場

10月22日(日) に実施。

参加者33、家族数24、家族含めて57名の参加。

ルーツは、中国、ネパール、フィリピンなど。通訳は14人稼働。そのうち4人、OCから派遣。

先輩談6人 そのうち2人はOC子ども土曜クラスから。振り返りの会を11月16日に実施する。

■大田区中国帰国者センターの集い ～中国残留孤児のお話や映像、パネル展示で歴史を振り返ります～

11月23日(木曜日・祝日) 13時30分～15時30分

会場：大田区消費者生活センター 2階 大集会室

発行／一般社団法人OCNet

URL: <http://www.ocnet.jp>

住所：〒144-0051 東京都大田区西蒲田 6-36-14 TTK マンション 1F

Address: 1F, 6-36-14 Nishikamata, Ota-ku, Tokyo, 144-0051

TEL&FAX: 03-3730-0556 E-mail: jimukyoku@ocnet.jp